

A.2 追加性に関する情報（5施設合計）

投資回収年

投資回収年数	5.9
--------	-----

年

A.2 追加性に関する情報（本社）

投資回収年

投資回収年数	10.6
--------	------

年

A.3 排出削減量の算定方法(本社)

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (式1)$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量 (0年 \leq t<1年)	tCO2/年	12
ER	排出削減量 (1年 \leq t<2.5年)	tCO2/年	11
ER	排出削減量 (2.5年 \leq t)	tCO2/年	11
EM_{BL}	ベースライン排出量 (0年 \leq t<1年) ※1	tCO2/年	21.9
EM_{BL}	ベースライン排出量 (1年 \leq t<2.5年) ※1	tCO2/年	21.6
EM_{BL}	ベースライン排出量 (2.5年 \leq t) ※1	tCO2/年	21.3
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (0年 \leq t<1年) ※2	tCO2/年	9.8
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (1年 \leq t<2.5年) ※2	tCO2/年	9.7
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (2.5年 \leq t) ※2	tCO2/年	9.6

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		排出量の算定を行う
		排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A. 3. 1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
			排出量の算定を行う。
			排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

- ※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
 ※2 A. 3. 1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。
 ※3 方法論で規定された方法から選択すること。
 ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A. 3. 3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 方法論006の「プロジェクト実施後の照明設備の電力使用量から算出する。」

$$EM_{PJ} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity, t} \quad (式2)$$

$$EL_{PJ} = R_{PJ} \times T_{PJ} \quad (式3)$$

記号	定義	単位	想定値
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /年	9.8
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /年	9.7
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /年	9.6
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	17,293
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000554
R _{PJ-1}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1F出荷口倉庫前)	W	300.3
R _{PJ-2}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (出荷口倉庫)	W	432.9
R _{PJ-3}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫前)	W	245.7
R _{PJ-4}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫G-L)	W	344.0
R _{PJ-5}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	946.0

R _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫0-F)	W	38.4
R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫0-F)	W	67.6
R _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫B)	W	265.8
R _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫B)	W	21.5
R _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	432.9
R _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (事務所)	W	1816.3
R _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (サーバー室)	W	43.0
R _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (中2F 倉庫A)	W	172.0
R _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (倉庫B-E)	W	602.0
R _{PJ} -15	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (倉庫F-1)	W	279.5
R _{PJ} -16	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (2F 3-02エリア)	W	258.0
R _{PJ} -17	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (3-01エリア)	W	193.5
R _{PJ} -18	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (3-03エリア)	W	172.0
R _{PJ} -19	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (3-04エリア)	W	86.0
R _{PJ} -20	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (ロテリア)	W	107.5
R _{PJ} -21	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (魚蔵)	W	21.5
R _{PJ} -22	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (ローソン)	W	215.0
R _{PJ} -23	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (3F 5-01エリア)	W	258.0
R _{PJ} -24	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (5-02エリア)	W	344.0
R _{PJ} -25	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (5-03エリア)	W	494.5
R _{PJ} -26	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1F 外部プラケット)	W	16.0
R _{PJ} -27	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯 (外部))	W	176.0
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1F 出荷口倉庫前)	h/年	1,952
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (出荷口倉庫)	h/年	1,952
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫前)	h/年	1,952
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫G-L)	h/年	1,952
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫0-F)	h/年	1,952
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫0-F)	h/年	1,952

T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫0-F)	h/年	1,952
T _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫B)	h/年	1,952
T _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫B)	h/年	1,952
T _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,196
T _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (事務所)	h/年	2,196
T _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (サーバー室)	h/年	2,196
T _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (中2F倉庫A)	h/年	1,952
T _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (倉庫B-E)	h/年	1,952
T _{PJ} -15	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (倉庫F-1)	h/年	1,952
T _{PJ} -16	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (2F 3-02エリア)	h/年	1,952
T _{PJ} -17	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (3-01エリア)	h/年	1,952
T _{PJ} -18	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (3-03エリア)	h/年	1,952
T _{PJ} -19	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (3-04エリア)	h/年	1,952
T _{PJ} -20	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (ロテリア)	h/年	1,952
T _{PJ} -21	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (魚蔵)	h/年	1,952
T _{PJ} -22	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (ローソン)	h/年	1,952
T _{PJ} -23	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (3F 5-01エリア)	h/年	1,952
T _{PJ} -24	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (5-02エリア)	h/年	1,952
T _{PJ} -25	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (5-03エリア)	h/年	1,952
T _{PJ} -26	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1F 外部プラケット)	h/年	4,218
T _{PJ} -27	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯 (外部))	h/年	4,218

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の稼働時間で、プロジェクト実施後の照明設備ではなく、ベースラインの照明設備を稼働する場合に想定されるCO₂排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$T_{BL}=T_{PJ} \quad \text{(式4)}$$

記号	定義	単位	想定値
T_{BL}	ベースラインの照明設備の稼働時間	h/年	
T_{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間	h/年	

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = R_{BL} \times T_{BL} \times CEF_{\text{electricity}, t}$$

(式5)

記号	定義	単位	想定値
EM _{BL}	ベースラインの排出量 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /年	21.9
EM _{BL}	ベースラインの排出量 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /年	21.6
EM _{BL}	ベースラインの排出量 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /年	21.3
R _{BL} -1	ベースラインの照明設備の消費電力 (1F 出荷口倉庫前)	W	990
R _{BL} -2	ベースラインの照明設備の消費電力 (出荷口倉庫)	W	1,144
R _{BL} -3	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫前)	W	810
R _{BL} -4	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫G-L)	W	736
R _{BL} -5	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	2,024
R _{BL} -6	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	40
R _{BL} -7	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	180
R _{BL} -8	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫B)	W	528
R _{BL} -9	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫B)	W	46
R _{BL} -10	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	1,144
R _{BL} -11	ベースラインの照明設備の消費電力 (事務所)	W	3,608
R _{BL} -12	ベースラインの照明設備の消費電力 (サーバー室)	W	92
R _{BL} -13	ベースラインの照明設備の消費電力 (中2F 倉庫A)	W	376
R _{BL} -14	ベースラインの照明設備の消費電力 (倉庫B-E)	W	1,316
R _{BL} -15	ベースラインの照明設備の消費電力 (倉庫F-1)	W	611
R _{BL} -16	ベースラインの照明設備の消費電力 (2F 3-02エリア)	W	564
R _{BL} -17	ベースラインの照明設備の消費電力 (3-01エリア)	W	423
R _{BL} -18	ベースラインの照明設備の消費電力 (3-03エリア)	W	376
R _{BL} -19	ベースラインの照明設備の消費電力 (3-04エリア)	W	188
R _{BL} -20	ベースラインの照明設備の消費電力 (ロッテリア)	W	235

R _{BL} -21	ベースラインの照明設備の消費電力 (魚蔵)	W	47
R _{BL} -22	ベースラインの照明設備の消費電力 (ローソン)	W	470
R _{BL} -23	ベースラインの照明設備の消費電力 (3F 5-01エリア)	W	564
R _{BL} -24	ベースラインの照明設備の消費電力 (5-02エリア)	W	752
R _{BL} -25	ベースラインの照明設備の消費電力 (5-03エリア)	W	1,081
R _{BL} -26	ベースラインの照明設備の消費電力 (1F 外部プラケット)	W	44
R _{BL} -27	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯 (外部))	W	320
T _{BL} -1	ベースラインの照明設備の稼働時間 (1F 出荷口倉庫前)	h/年	1,952
T _{BL} -2	ベースラインの照明設備の稼働時間 (出荷口倉庫)	h/年	1,952
T _{BL} -3	ベースラインの照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫前)	h/年	1,952
T _{BL} -4	ベースラインの照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫G-L)	h/年	1,952
T _{BL} -5	ベースラインの照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫O-F)	h/年	1,952
T _{BL} -6	ベースラインの照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫O-F)	h/年	1,952
T _{BL} -7	ベースラインの照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫O-F)	h/年	1,952
T _{BL} -8	ベースラインの照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫B)	h/年	1,952
T _{BL} -9	ベースラインの照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫B)	h/年	1,952
T _{BL} -10	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,196
T _{BL} -11	ベースラインの照明設備の稼働時間 (事務所)	h/年	2,196
T _{BL} -12	ベースラインの照明設備の稼働時間 (サーバー室)	h/年	2,196
T _{BL} -13	ベースラインの照明設備の稼働時間 (中2F 倉庫A)	h/年	1,952
T _{BL} -14	ベースラインの照明設備の稼働時間 (倉庫B-E)	h/年	1,952
T _{BL} -15	ベースラインの照明設備の稼働時間 (倉庫F-1)	h/年	1,952
T _{BL} -16	ベースラインの照明設備の稼働時間 (2F 3-02エリア)	h/年	1,952
T _{BL} -17	ベースラインの照明設備の稼働時間 (3-01エリア)	h/年	1,952
T _{BL} -18	ベースラインの照明設備の稼働時間 (3-03エリア)	h/年	1,952
T _{BL} -19	ベースラインの照明設備の稼働時間 (3-04エリア)	h/年	1,952
T _{BL} -20	ベースラインの照明設備の稼働時間 (ロテリア)	h/年	1,952
T _{BL} -21	ベースラインの照明設備の稼働時間 (魚蔵)	h/年	1,952

T _{BL} -22	ベースラインの照明設備の稼働時間 (ローソン)	h/年	1,952
T _{BL} -23	ベースラインの照明設備の稼働時間 (3F 5-01エリア)	h/年	1,952
T _{BL} -24	ベースラインの照明設備の稼働時間 (5-02エリア)	h/年	1,952
T _{BL} -25	ベースラインの照明設備の稼働時間 (5-03エリア)	h/年	1,952
T _{BL} -26	ベースラインの照明設備の稼働時間 (1F 外部プラケット)	h/年	4,218
T _{BL} -27	ベースラインの照明設備の稼働時間 (看板灯 (外部))	h/年	4,218
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000554

(3) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画（本社）

（1）活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類※1	概要	頻度	想定値	根拠	
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	C	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間をもとに算定する。	月	17,293	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間	
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1F 出荷口倉庫前)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (出荷口倉庫)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫前)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫G-L)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫O-F)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫O-F)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫O-F)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫B)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (入荷口倉庫B)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	

T _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (事務所)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (サーバー室)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (中2F倉庫A)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (倉庫B-E)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -15	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (倉庫F-1)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -16	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (2F 3-02エリア)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -17	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (3-01エリア)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -18	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (3-03エリア)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -19	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (3-04エリア)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -20	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (ロッテリア)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -21	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (魚蔵)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -22	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (ローソン)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -23	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (3F 5-01エリア)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -24	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (5-02エリア)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	

T _{PJ} -25	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (5-03エリア)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -26	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1F 外部プラケット)	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -27	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯（外部）)	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。
 分類B（計量器）を用いる場合には、A. 4. 2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。
 分類C（概算等）を用いる場合には、A. 4. 3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
R _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1F出荷口倉庫前)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	300.3	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (出荷口倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	432.9	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫前)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	245.7	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫G-L)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	344.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	946.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	38.4	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	67.6	カタログ値	パナソニック(株)

R _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫B)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	265.8	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (入荷口倉庫B)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	21.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	432.9	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (事務所)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,816.3	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (サーバー室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	43.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (中2F倉庫A)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	172.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (倉庫B-E)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	602.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -15	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (倉庫F-1)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	279.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -16	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (2F 3-02エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	258.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -17	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (3-01エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	193.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -18	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (3-03エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	172.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -19	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (3-04エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	86.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -20	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (ロッテリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	107.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -21	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (魚蔵)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	21.5	カタログ値	パナソニック(株)

R _{PJ} -22	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (ローソン)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	215.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -23	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (3F 5-01エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	258.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -24	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (5-02エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	344.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -25	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (5-03エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	494.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -26	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1F 外部プラケット)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	16.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -27	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯(外部))	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	176.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -1	ベースラインの照明設備の消費電力 (1F 出荷口倉庫前)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	990	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -2	ベースラインの照明設備の消費電力 (出荷口倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,144	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -3	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫前)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	810	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -4	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫G-L)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	736	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -5	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	2,024	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -6	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	40	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -7	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫O-F)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	180	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -8	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫B)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	528	カタログ値	パナソニック(株)

R _{BL} -9	ベースラインの照明設備の消費電力 (入荷口倉庫B)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	46	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -10	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,144	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -11	ベースラインの照明設備の消費電力 (事務所)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	3,608	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -12	ベースラインの照明設備の消費電力 (サーバー室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	92	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -13	ベースラインの照明設備の消費電力 (中2F倉庫A)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	376	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -14	ベースラインの照明設備の消費電力 (倉庫B-E)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,316	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -15	ベースラインの照明設備の消費電力 (倉庫F-1)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	611	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -16	ベースラインの照明設備の消費電力 (2F 3-02エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	564	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -17	ベースラインの照明設備の消費電力 (3-01エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	423	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -18	ベースラインの照明設備の消費電力 (3-03エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	376	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -19	ベースラインの照明設備の消費電力 (3-04エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	188	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -20	ベースラインの照明設備の消費電力 (ロテリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	235	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -21	ベースラインの照明設備の消費電力 (魚蔵)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	47	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -22	ベースラインの照明設備の消費電力 (ローソン)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	470	カタログ値	パナソニック(株)

R _{BL} -23	ベースラインの照明設備の消費電力 (3F 5-01エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	564	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -24	ベースラインの照明設備の消費電力 (5-02エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	752	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -25	ベースラインの照明設備の消費電力 (5-03エリア)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,081	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -26	ベースラインの照明設備の消費電力 (1F 外部プラケット)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	44	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -27	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯 (外部))	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	320	カタログ値	パナソニック(株)
CEFelectricity	電力のCO ₂ 排出係数	tCO ₂ /kWh	III	デフォルト値を使用する	検証申請時に最新のものを使用	0.000569	デフォルト値	移行限界電源方式 (0年 ≤ t < 1年)
						0.0005615	デフォルト値	移行限界電源方式 (1年 ≤ t < 2.5年)
						0.000554	デフォルト値	移行限界電源方式 (2.5年 ≤ t 年)

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

（1）計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	パナソニック(株)	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限
	該当しない		

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明
	該当しない		

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

（2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

該当しない

A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	プロジェクト実施後の照明の稼働時間(h/年)			
<p>(推定・概算方法)</p> <p>A. 店舗、事務所等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の稼働時間は店舗営業時間である9時間(9:00～18:00)を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しているため営業時間を稼働時間とすることで保守的となる。 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は244日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 保守的稼働時間に年間稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 9時間 × 244日 = 2,196時間 <p>B. 倉庫等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の稼働時間は店舗営業時間である9時間(9:00～18:00)から、昼休憩の1時間(12:00～13:00)を引いた8時間を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しており、昼休憩時間も倉庫内作業に伴い照明を点灯していることが多いため営業時間から昼休憩を引いた稼働時間とすることで保守的となる。 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は244日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 保守的稼働時間に年間稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 8時間 × 244日 = 1,952時間 <p>C. 屋外照明</p> <p>(式) Σ12ヶ月の総和 {一日の照明設備(外灯・看板等)の稼働時間(h/日) × 月ごとの稼働日(日/月)} = 年間稼働時間(h/年)</p> <p>施設の夜間照明設備は自動点灯のため、日没時間と日出時間より稼働時間を評価する。保守的となるように、国立天文台の暦データ(地点:沖縄県那覇市)より月ごとの最も遅い日没時間～最も早い日出時間を点灯時間として毎月確認し、月ごとの日数をかけて年間稼働時間を把握する。</p> <p>モニタリング開始後直近一年における、月ごとの最も遅い日没時間と、最も早い日の出時間は以下のとおりであり、外灯は365日点灯している。</p> <p>これより、モニタリング開始後直近一年における年間稼働時間は4,218(h/年)となる。</p>				
日付	最も早い日出時間	最も遅い日没時間	稼働時間(h/日)	稼働時間(h/月)
2017年3月	6:22	18:46	11:36	359:36

2017年4月	5:53	19:01	10:52	326:00
2017年5月	5:37	19:17	10:20	320:20
2017年6月	5:36	19:26	10:10	305:00
2017年7月	5:40	19:26	10:14	317:14
2017年8月	5:55	19:16	10:39	330:09
2017年9月	6:09	18:49	11:20	340:00
2017年10月	6:22	18:16	12:06	375:06
2017年11月	6:38	17:48	12:50	385:00
2017年12月	6:59	17:48	13:11	408:41
2018年1月	7:14	18:11	13:03	404:33
2018年2月	6:54	18:30	12:24	347:12
			合計	4218:51

(モニタリングポイント)

該当しない

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類 A ~ 分類 C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	該当しない
該当しない	

A.2 追加性に関する情報（物流センター）

投資回収年

投資回収年数	5.8
--------	-----

年

A.3 排出削減量の算定方法(物流センター)

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (式1)$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量 (0年 \leq t<1年)	tCO2/年	51
ER	排出削減量 (1年 \leq t<2.5年)	tCO2/年	50
ER	排出削減量 (2.5年 \leq t)	tCO2/年	50
EM_{BL}	ベースライン排出量 (0年 \leq t<1年) ※1	tCO2/年	81.5
EM_{BL}	ベースライン排出量 (1年 \leq t<2.5年) ※1	tCO2/年	80.4
EM_{BL}	ベースライン排出量 (2.5年 \leq t) ※1	tCO2/年	79.3
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (0年 \leq t<1年) ※2	tCO2/年	29.7
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (1年 \leq t<2.5年) ※2	tCO2/年	29.4
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (2.5年 \leq t) ※2	tCO2/年	29.0

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		排出量の算定を行う
		排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A. 3. 1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
			排出量の算定を行う。
			排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 A. 3. 1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。

※3 方法論で規定された方法から選択すること。

※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A. 3. 3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 方法論006の「プロジェクト実施後の照明設備の電力使用量から算出する。

$$EM_{PJ} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity, t} \quad (式2)$$

$$EL_{PJ} = R_{PJ} \times T_{PJ} \quad (式3)$$

記号	定義	単位	想定値
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /年	29.7
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /年	29.4
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /年	29.0
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	52,274
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000554
R _{PJ-1}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (メンテナンス・事務室)	W	3321.6
R _{PJ-2}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	2366.0
R _{PJ-3}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1, 2階廊下)	W	288.0
R _{PJ-4}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (工場・シール工場)	W	664.5
R _{PJ-5}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (シール工場、工場、店舗)	W	4895.1

R _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	1376.0
R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第2倉庫)	W	202.8
R _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第3倉庫)	W	1065.6
R _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (食品管理室)	W	33.8
R _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第1倉庫軒下)	W	79.2
R _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第2倉庫軒下)	W	627.9
R _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗トイレ)	W	240.0
R _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗、1階事務所風除)	W	133.0
R _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (室外機置場)	W	170.0
R _{PJ} -15	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (室外機置場)	W	24.0
R _{PJ} -16	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (2階屋上)	W	371.7
R _{PJ} -17	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第4倉庫)	W	225.0
R _{PJ} -18	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (倉庫)	W	7476.0
R _{PJ} -19	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1階軒下、店舗軒下)	W	123.2
R _{PJ} -20	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	505.0
R _{PJ} -21	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	176.0
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (メンテナンス・事務室)	h/年	2,196
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,196
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1,2階廊下)	h/年	1,952
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (工場・シール工場)	h/年	2,196
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (シール工場、工場、店舗)	h/年	2,196
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,196
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第2倉庫)	h/年	1,952
T _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第3倉庫)	h/年	1,952
T _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (食品管理室)	h/年	1,952
T _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第1倉庫軒下)	h/年	1,952
T _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第2倉庫軒下)	h/年	1,952
T _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗トイレ)	h/年	2,196

T _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗、1階事務所風除)	h/年	2,196
T _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (室外機置場)	h/年	1,952
T _{PJ} -15	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (室外機置場)	h/年	1,952
T _{PJ} -16	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (2階屋上)	h/年	1,952
T _{PJ} -17	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第4倉庫)	h/年	1,952
T _{PJ} -18	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (倉庫)	h/年	1,952
T _{PJ} -19	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1階軒下、店舗軒下)	h/年	1,952
T _{PJ} -20	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{PJ} -21	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	4,218

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の稼働時間で、プロジェクト実施後の照明設備ではなく、ベースラインの照明設備を稼働する場合に想定されるCO₂排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$T_{BL}=T_{PJ}$$

(式4)

記号	定義	単位	想定値
T_{BL}	ベースラインの照明設備の稼働時間	h/年	
T_{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間	h/年	

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = R_{BL} \times T_{BL} \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式5})$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (0年 \leq t<1年)	tCO ₂ /年	81.5
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (1年 \leq t<2.5年)	tCO ₂ /年	80.4
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (2.5年 \leq t)	tCO ₂ /年	79.3
R_{BL-1}	ベースラインの照明設備の消費電力 (メンテナンス・事務室)	W	8,160
R_{BL-2}	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	6,380
R_{BL-3}	ベースラインの照明設備の消費電力 (1,2階廊下)	W	736
R_{BL-4}	ベースラインの照明設備の消費電力 (工場・シール工場)	W	1,320
R_{BL-5}	ベースラインの照明設備の消費電力 (シール工場、工場、店舗)	W	14,194
R_{BL-6}	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	2,240
R_{BL-7}	ベースラインの照明設備の消費電力 (第2倉庫)	W	765
R_{BL-8}	ベースラインの照明設備の消費電力 (第3倉庫)	W	3,008
R_{BL-9}	ベースラインの照明設備の消費電力 (食品管理室)	W	94
R_{BL-10}	ベースラインの照明設備の消費電力 (第1倉庫軒下)	W	282
R_{BL-11}	ベースラインの照明設備の消費電力 (第2倉庫軒下)	W	2,162
R_{BL-12}	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗トイレ)	W	400
R_{BL-13}	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗、1階事務所風除)	W	840
R_{BL-14}	ベースラインの照明設備の消費電力 (室外機置場)	W	215
R_{BL-15}	ベースラインの照明設備の消費電力 (室外機置場)	W	40
R_{BL-16}	ベースラインの照明設備の消費電力 (2階屋上)	W	1,200
R_{BL-17}	ベースラインの照明設備の消費電力 (第4倉庫)	W	1,750
R_{BL-18}	ベースラインの照明設備の消費電力 (倉庫)	W	21,000

R _{BL} -19	ベースラインの照明設備の消費電力 (1階軒下、店舗軒下)	W	432
R _{BL} -20	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	1,500
R _{BL} -21	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	320
T _{BL} -1	ベースラインの照明設備の稼働時間 (メンテナンス・事務室)	h/年	2,196
T _{BL} -2	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,196
T _{BL} -3	ベースラインの照明設備の稼働時間 (1,2階廊下)	h/年	1,952
T _{BL} -4	ベースラインの照明設備の稼働時間 (工場・シール工場)	h/年	2,196
T _{BL} -5	ベースラインの照明設備の稼働時間 (シール工場、工場、店舗)	h/年	2,196
T _{BL} -6	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,196
T _{BL} -7	ベースラインの照明設備の稼働時間 (第2倉庫)	h/年	1,952
T _{BL} -8	ベースラインの照明設備の稼働時間 (第3倉庫)	h/年	1,952
T _{BL} -9	ベースラインの照明設備の稼働時間 (食品管理室)	h/年	1,952
T _{BL} -10	ベースラインの照明設備の稼働時間 (第1倉庫軒下)	h/年	1,952
T _{BL} -11	ベースラインの照明設備の稼働時間 (第2倉庫軒下)	h/年	1,952
T _{BL} -12	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗トイレ)	h/年	2,196
T _{BL} -13	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗、1階事務所風除)	h/年	2,196
T _{BL} -14	ベースラインの照明設備の稼働時間 (室外機置場)	h/年	1,952
T _{BL} -15	ベースラインの照明設備の稼働時間 (室外機置場)	h/年	1,952
T _{BL} -16	ベースラインの照明設備の稼働時間 (2階屋上)	h/年	1,952
T _{BL} -17	ベースラインの照明設備の稼働時間 (第4倉庫)	h/年	1,952
T _{BL} -18	ベースラインの照明設備の稼働時間 (倉庫)	h/年	1,952
T _{BL} -19	ベースラインの照明設備の稼働時間 (1階軒下、店舗軒下)	h/年	1,952
T _{BL} -20	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{BL} -21	ベースラインの照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	4,218
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000554

(3) 付随的な排出活動

注) A. 3. 2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画（物流センター）

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類※1	概要	頻度	想定値	根拠	
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	C	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間をもとに算定する。	月	52,274	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間	
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (メンテナンス・事務室)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1,2階廊下)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (工場・シール工場)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (シール工場、工場、店)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第2倉庫)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第3倉庫)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (食品管理室)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第1倉庫軒下)	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	

T _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第2倉庫軒下)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗トイレ)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗、1階事務所風除)	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,196	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (室外機置場)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -15	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (室外機置場)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -16	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (2階屋上)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -17	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (第4倉庫)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -18	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (倉庫)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -19	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1階軒下、店舗軒下)	h/年	C	営業日と営業時間(昼休憩を除く)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	1,952	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -20	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	C	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -21	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	C	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)より、日出・日没時間を確認	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。
 分類B(計量器)を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。
 分類C(概算等)を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数(単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目	モニタリング方法	プロジェクト計画での想定	備考
----------	----------	--------------	----

記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	備考
R _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (メンテナンス・事務室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	3,321.6	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	2,366.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1,2階廊下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	288.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (工場・シール工場)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	664.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (シール工場、工場、店)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	4,895.1	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,376.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第2倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	202.8	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第3倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,065.6	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (食品管理室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	33.8	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第1倉庫軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	79.2	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第2倉庫軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	627.9	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗トイレ)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	240.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗、1階事務所風除)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	133.0	カタログ値	パナソニック(株)

R _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (室外機置場)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	170.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -15	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (室外機置場)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	24.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -16	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (2階屋上)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	371.7	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -17	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (第4倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	225.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -18	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	7,476.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -19	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1階軒下、店舗軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	123.2	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -20	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	505.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -21	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	176.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -1	ベースラインの照明設備の消費電力 (メンテナンス・事務室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	8,160	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -2	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	6,380	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -3	ベースラインの照明設備の消費電力 (1,2階廊下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	736	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -4	ベースラインの照明設備の消費電力 (工場・シール工場)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,320	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -5	ベースラインの照明設備の消費電力 (シール工場、工場、店)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	14,194	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -6	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	2,240	カタログ値	パナソニック(株)

R _{BL} -7	ベースラインの照明設備の消費電力 (第2倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	765	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -8	ベースラインの照明設備の消費電力 (第3倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	3,008	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -9	ベースラインの照明設備の消費電力 (食品管理室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	94	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -10	ベースラインの照明設備の消費電力 (第1倉庫軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	282	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -11	ベースラインの照明設備の消費電力 (第2倉庫軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	2,162	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -12	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗トイレ)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	400	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -13	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗、1階事務所風除)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	840	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -14	ベースラインの照明設備の消費電力 (室外機置場)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	215	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -15	ベースラインの照明設備の消費電力 (室外機置場)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	40	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -16	ベースラインの照明設備の消費電力 (2階屋上)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,200	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -17	ベースラインの照明設備の消費電力 (第4倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,750	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -18	ベースラインの照明設備の消費電力 (倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	21,000	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -19	ベースラインの照明設備の消費電力 (1階軒下、店舗軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	432	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -20	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,500	カタログ値	パナソニック(株)

R _{BL} -21	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	320	カタログ値	パナソニック(株)
CEFelectricity	電力のCO ₂ 排出係数	tCO ₂ /kWh	Ⅲ	デフォルト値を使用する	検証申請時に最新のものを使用	0.000569	デフォルト値	移行限界電源方式 (0年 ≤ t < 1年)
						0.0005615	デフォルト値	移行限界電源方式 (1年 ≤ t < 2.5年)
						0.000554	デフォルト値	移行限界電源方式 (2.5年 ≤ t年)

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

（1）計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	パナソニック(株)	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限
	該当しない		

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明
	該当しない		

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

（2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

該当しない

A. 4. 3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4. 1（1）においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	プロジェクト実施後の照明の稼働時間(h/年)			
<p>(推定・概算方法)</p> <p>A. 店舗、事務所等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の稼働時間は店舗営業時間である9時間(9:00~18:00)を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しているため営業時間を稼働時間とすることで保守的となる。 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は244日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 保守的稼働時間に年間稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 9時間 × 244日 = 2,196時間 <p>B. 倉庫等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の稼働時間は店舗営業時間である9時間(9:00~18:00)から、昼休憩の1時間(12:00~13:00)を引いた8時間を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しており、昼休憩時間も倉庫内作業に伴い照明を点灯していることが多いため営業時間から昼休憩を引いた稼働時間とすることで保守的となる。 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は244日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 保守的稼働時間に年間稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 8時間 × 244日 = 1,952時間 <p>C. 屋外照明</p> <p>(式) Σ12ヶ月の総和 {一日の照明設備(外灯・看板等)の稼働時間(h/日) × 月ごとの稼働日(日/月)} = 年間稼働時間(h/年)</p> <p>施設の夜間照明設備は自動点灯のため、日没時間と日出時間より稼働時間を評価する。保守的となるように、国立天文台の暦データ(地点:沖縄県那覇市)より月ごとの最も遅い日没時間~最も早い日出時間を点灯時間として毎月確認し、月ごとの日数をかけて年間稼働時間を把握する。</p> <p>モニタリング開始後直近一年における、月ごとの最も遅い日没時間と、最も早い日の出時間は以下のとおりであり、外灯は365日点灯している。これより、モニタリング開始後直近一年における年間稼働時間は4,218(h/年)となる。</p>				
日付	最も早い日出時間	最も遅い日没時間	稼働時間(h/日)	稼働時間(h/月)
2017年3月	6:22	18:46	11:36	359:36

2017年4月	5:53	19:01	10:52	326:00
2017年5月	5:37	19:17	10:20	320:20
2017年6月	5:36	19:26	10:10	305:00
2017年7月	5:40	19:26	10:14	317:14
2017年8月	5:55	19:16	10:39	330:09
2017年9月	6:09	18:49	11:20	340:00
2017年10月	6:22	18:16	12:06	375:06
2017年11月	6:38	17:48	12:50	385:00
2017年12月	6:59	17:48	13:11	408:41
2018年1月	7:14	18:11	13:03	404:33
2018年2月	6:54	18:30	12:24	347:12
			合計	4218:51

(モニタリングポイント)

該当しない

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A~分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	該当しない
該当しない	

A.2 追加性に関する情報（名護店）

投資回収年

投資回収年数	4.2
--------	-----

年

A.3 排出削減量の算定方法(名護店)

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (式1)$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量 (0年 \leq t<1年)	tCO2/年	15
ER	排出削減量 (1年 \leq t<2.5年)	tCO2/年	15
ER	排出削減量 (2.5年 \leq t)	tCO2/年	14
EM_{BL}	ベースライン排出量 (0年 \leq t<1年) ※1	tCO2/年	26.1
EM_{BL}	ベースライン排出量 (1年 \leq t<2.5年) ※1	tCO2/年	25.8
EM_{BL}	ベースライン排出量 (2.5年 \leq t) ※1	tCO2/年	25.5
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (0年 \leq t<1年) ※2	tCO2/年	10.7
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (1年 \leq t<2.5年) ※2	tCO2/年	10.6
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (2.5年 \leq t) ※2	tCO2/年	10.5

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		排出量の算定を行う
		排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A. 3. 1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
			排出量の算定を行う。
			排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

- ※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
 ※2 A. 3. 1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。
 ※3 方法論で規定された方法から選択すること。
 ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A. 3. 3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 方法論006の「プロジェクト実施後の照明設備の電力使用量から算出する。」

$$EM_{PJ} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity, t} \quad (式2)$$

$$EL_{PJ} = R_{PJ} \times T_{PJ} \quad (式3)$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (0年 \leq t<1年)	tCO ₂ /年	10.7
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (1年 \leq t<2.5年)	tCO ₂ /年	10.6
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (2.5年 \leq t)	tCO ₂ /年	10.5
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	18,868
$CEF_{electricity, t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 \leq t<1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
$CEF_{electricity, t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 \leq t<2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
$CEF_{electricity, t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 \leq t)	tCO ₂ /kWh	0.000554
R_{PJ-1}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	88.6
R_{PJ-2}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	3,784.0
R_{PJ-3}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1,2階倉庫)	W	1,240.4
R_{PJ-4}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (軒下)	W	136.5
R_{PJ-5}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	72.0

R _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (風除室)	W	45.0
R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (風除室)	W	63.2
R _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (軒下)	W	84.7
R _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	33.0
R _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	360.0
R _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	192.0
R _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	30.0
R _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	59.5
R _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	264.0
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,790
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,790
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (1,2階倉庫)	h/年	2,480
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (軒下)	h/年	2,480
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (包丁棚)	h/年	2,480
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (風除室)	h/年	2,790
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (風除室)	h/年	2,790
T _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (軒下)	h/年	2,480
T _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	4,218

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載

(式)

記号	定義	単位	想定値
----	----	----	-----

--	--	--	--

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の稼働時間で、プロジェクト実施後の照明設備ではなく、ベースラインの照明設備を稼働する場合に想定されるCO₂排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$T_{BL}=T_{PJ} \quad (式4)$$

記号	定義	単位	想定値
T_{BL}	ベースラインの照明設備の稼働時間	h/年	
T_{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間	h/年	

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = R_{BL} \times T_{BL} \times CEF_{\text{electricity}, t}$$

(式5)

記号	定義	単位	想定値
EM _{BL}	ベースラインの排出量 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /年	26.1
EM _{BL}	ベースラインの排出量 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /年	25.8
EM _{BL}	ベースラインの排出量 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /年	25.5
R _{BL} -1	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	176
R _{BL} -2	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	7,920
R _{BL} -3	ベースラインの照明設備の消費電力 (1, 2階倉庫)	W	2,464
R _{BL} -4	ベースラインの照明設備の消費電力 (軒下)	W	230
R _{BL} -5	ベースラインの照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	120
R _{BL} -6	ベースラインの照明設備の消費電力 (風除室)	W	90
R _{BL} -7	ベースラインの照明設備の消費電力 (風除室)	W	216
R _{BL} -8	ベースラインの照明設備の消費電力 (軒下)	W	297
R _{BL} -9	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	60
R _{BL} -10	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	1,600
R _{BL} -11	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	1,200
R _{BL} -12	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	68
R _{BL} -13	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	100
R _{BL} -14	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	480
T _{BL} -1	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,790
T _{BL} -2	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,790
T _{BL} -3	ベースラインの照明設備の稼働時間 (1, 2階倉庫)	h/年	2,480
T _{BL} -4	ベースラインの照明設備の稼働時間 (軒下)	h/年	2,480
T _{BL} -5	ベースラインの照明設備の稼働時間 (包丁棚)	h/年	2,480
T _{BL} -6	ベースラインの照明設備の稼働時間 (風除室)	h/年	2,790

T _{BL} -7	ベースラインの照明設備の稼働時間 (風除室)	h/年	2,790
T _{BL} -8	ベースラインの照明設備の稼働時間 (軒下)	h/年	2,480
T _{BL} -9	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{BL} -10	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{BL} -11	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{BL} -12	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{BL} -13	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	4,218
T _{BL} -14	ベースラインの照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	4,218
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000554

(3) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画（名護店）

（1）活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類※1	概要	頻度	想定値	根拠	
ELPJ	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	C	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間をもとに算定する。	月	18,868	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間	
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（店舗）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,790	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（店舗）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,790	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（1,2階倉庫）	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,480	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（軒下）	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,480	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（包丁棚）	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,480	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（風除室）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,790	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（風除室）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,790	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（軒下）	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,480	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（外灯）	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（外灯）	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	

T _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	C	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	C	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外灯)	h/年	C	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	C	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ(沖縄県那覇市)より、日出・日没時間を確認	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。
 分類B(計量器)を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。
 分類C(概算等)を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数(単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等)

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
R _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	88.6	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	3,784.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (1,2階倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,240.4	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	136.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	72.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (風除室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	45.0	カタログ値	パナソニック(株)

R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (風除室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	63.2	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	84.7	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -9	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	33.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -10	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	360.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -11	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	192.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -12	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	30.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -13	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	59.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -14	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	264.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -1	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	176	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -2	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	7,920	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -3	ベースラインの照明設備の消費電力 (1,2階倉庫)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	2,464	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -4	ベースラインの照明設備の消費電力 (軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	230	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -5	ベースラインの照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	120	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -6	ベースラインの照明設備の消費電力 (風除室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	90	カタログ値	パナソニック(株)

R _{BL} -7	ベースラインの照明設備の消費電力 (風除室)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	216	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -8	ベースラインの照明設備の消費電力 (軒下)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	297	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -9	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	60	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -10	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,600	カタログ値	岩崎電気(株)
R _{BL} -11	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,200	カタログ値	岩崎電気(株)
R _{BL} -12	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	68	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -13	ベースラインの照明設備の消費電力 (外灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	100	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -14	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	480	カタログ値	パナソニック(株)
CEFelectricity	電力のCO ₂ 排出係数	tCO ₂ /kWh	III	デフォルト値を使用する	検証申請時に最新のものを使用	0.000569	デフォルト値	移行限界電源方式 (0年 ≤ t < 1年)
						0.0005615	デフォルト値	移行限界電源方式 (1年 ≤ t < 2.5年)
						0.000554	デフォルト値	移行限界電源方式 (2.5年 ≤ t年)

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

（1）計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	パナソニック(株)	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限
	該当しない		

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明
	該当しない		

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

（2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

該当しない

A. 4. 3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4. 1（1）においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	プロジェクト実施後の照明の稼働時間(h/年)			
<p>(推定・概算方法)</p> <p>A. 店舗、事務所等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の稼働時間は店舗営業時間である9時間(9:30~18:30)を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しているため営業時間を稼働時間とすることで保守的となる。 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は310日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 保守的稼働時間に年化稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 9時間 × 310日 = 2,790時間 <p>B. 倉庫等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の稼働時間は店舗営業時間である9時間(9:30~18:30)から、昼休憩の1時間(12:00~13:00)を引いた8時間を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しており、昼休憩時間も倉庫内作業に伴い照明を点灯していることが多いため営業時間から昼休憩を引いた稼働時間とすることで保守的となる。 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は310日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 保守的稼働時間に年化稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 8時間 × 310日 = 2,480時間 <p>C. 屋外照明</p> <p>(式) $\Sigma 12$ヶ月の総和 {一日の照明設備(外灯・看板等)の稼働時間(h/日) × 月ごとの稼働日(日/月)} = 年間稼働時間(h/年)</p> <p>施設の夜間照明設備は自動点灯のため、日没時間と日出時間より稼働時間を評価する。保守的となるように、国立天文台の暦データ(地点:沖縄県那覇市)より月ごとの最も遅い日没時間~最も早い日出時間を点灯時間として毎月確認し、月ごとの日数をかけて年間稼働時間を把握する。</p> <p>モニタリング開始後直近一年における、月ごとの最も遅い日没時間と、最も早い日の出時間は以下のとおりであり、外灯は365日点灯している。</p> <p>これより、モニタリング開始後直近一年における年間稼働時間は4,218(h/年)となる。</p>				
日付	最も早い日出時間	最も遅い日没時間	稼働時間(h/日)	稼働時間(h/月)
2017年3月	6:22	18:46	11:36	359:36

2017年4月	5:53	19:01	10:52	326:00
2017年5月	5:37	19:17	10:20	320:20
2017年6月	5:36	19:26	10:10	305:00
2017年7月	5:40	19:26	10:14	317:14
2017年8月	5:55	19:16	10:39	330:09
2017年9月	6:09	18:49	11:20	340:00
2017年10月	6:22	18:16	12:06	375:06
2017年11月	6:38	17:48	12:50	385:00
2017年12月	6:59	17:48	13:11	408:41
2018年1月	7:14	18:11	13:03	404:33
2018年2月	6:54	18:30	12:24	347:12
			合計	4218:51

(モニタリングポイント)

該当しない

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類 A ~ 分類 C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	該当しない
該当しない	

A.2 追加性に関する情報（具志川店）

投資回収年

投資回収年数	7.9
--------	-----

年

A.3 排出削減量の算定方法(具志川店)

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (式1)$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量 (0年 ≤ t < 1年)	tCO2/年	7
ER	排出削減量 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO2/年	7
ER	排出削減量 (2.5年 ≤ t)	tCO2/年	7
EM_{BL}	ベースライン排出量 (0年 ≤ t < 1年) ※1	tCO2/年	14.5
EM_{BL}	ベースライン排出量 (1年 ≤ t < 2.5年) ※1	tCO2/年	14.3
EM_{BL}	ベースライン排出量 (2.5年 ≤ t) ※1	tCO2/年	14.1
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (0年 ≤ t < 1年) ※2	tCO2/年	7.2
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (1年 ≤ t < 2.5年) ※2	tCO2/年	7.1
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (2.5年 ≤ t) ※2	tCO2/年	7.0

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		排出量の算定を行う
		排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A. 3. 1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量 (tCO ₂ /年)	影響度 (%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
			排出量の算定を行う。
			排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

- ※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
 ※2 A. 3. 1で算定した排出削減量 (ER) に対する比率 (%) を記載すること。
 ※3 方法論で規定された方法から選択すること。
 ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A. 3. 3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 方法論006の「プロジェクト実施後の照明設備の電力使用量から算出する。

$$EM_{PJ} = EL_{PJ} \times CEF_{\text{electricity, t}} \quad (\text{式2})$$

$$EL_{PJ} = R_{PJ} \times T_{PJ} \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	想定値
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /年	7.2
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /年	7.1
EM _{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /年	7.0
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	12,588
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
CEF _{electricity, t}	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000554
R _{PJ-1}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (倉庫、事務所)	W	265.8
R _{PJ-2}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	2,687.5
R _{PJ-3}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	96.0
R _{PJ-4}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外部正面)	W	191.1
R _{PJ-5}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外部プラケット)	W	33.0
R _{PJ-6}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外部プラケット)	W	60.0

R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	264.0
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (倉庫、事務所)	h/年	3,439
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	3,439
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (包丁棚)	h/年	3,077
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外部正面)	h/年	3,898
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外部プラケット)	h/年	3,898
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (外部プラケット)	h/年	3,898
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	3,898

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載-

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の稼働時間で、プロジェクト実施後の照明設備ではなく、ベースラインの照明設備を稼働する場合に想定されるCO₂排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$T_{BL}=T_{PJ} \quad (式4)$$

記号	定義	単位	想定値
T_{BL}	ベースラインの照明設備の稼働時間	h/年	
T_{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間	h/年	

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL}=R_{BL} \times T_{BL} \times CEF_{\text{electricity, t}} \quad (式5)$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (0年 \leq t<1年)	tCO ₂ /年	14.5
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (1年 \leq t<2.5年)	tCO ₂ /年	14.3
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (2.5年 \leq t)	tCO ₂ /年	14.1
R_{BL-1}	ベースラインの照明設備の消費電力 (倉庫、事務所)	W	528
R_{BL-2}	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	5625
R_{BL-3}	ベースラインの照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	160
R_{BL-4}	ベースラインの照明設備の消費電力 (外部正面)	W	301
R_{BL-5}	ベースラインの照明設備の消費電力 (外部プラケット)	W	60
R_{BL-6}	ベースラインの照明設備の消費電力 (外部プラケット)	W	120
R_{BL-7}	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	480
T_{BL-1}	ベースラインの照明設備の稼働時間 (倉庫、事務所)	h/年	3,439
T_{BL-2}	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	3,439
T_{BL-3}	ベースラインの照明設備の稼働時間 (包丁棚)	h/年	3,077
T_{BL-4}	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外部正面)	h/年	3,898
T_{BL-5}	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外部プラケット)	h/年	3,898
T_{BL-6}	ベースラインの照明設備の稼働時間 (外部プラケット)	h/年	3,898

T_{BL-7}	ベースラインの照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	3,898
$CEF_{electric}$	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
$CEF_{electric}$	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
$CEF_{electric}$	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000554

(3) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画（具志川店）

（1）活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類※1	概要	頻度	想定値	根拠	
ELPJ	プロジェクト外実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	C	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間をもとに算定する。	月	12,588	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間	
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（倉庫、事務所）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	3,439	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（店舗）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	3,439	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（包丁棚）	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	3,077	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（外部正面）	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	3,898	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（外部ブラケット）	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	3,898	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（外部ブラケット）	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	3,898	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（看板灯）	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	3,898	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。

分類B（計量器）を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。

分類C（概算等）を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

（2）係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目	モニタリング方法	プロジェクト計画での想定	備考
----------	----------	--------------	----

記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	備考
R _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (倉庫、事務所)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	265.8	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	2,687.5	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	96.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外部正面)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	191.1	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外部ブラケット)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	33.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (外部ブラケット)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	60.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	264.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -1	ベースラインの照明設備の消費電力 (倉庫、事務所)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	528	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -2	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	5,625	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -3	ベースラインの照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	160	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -4	ベースラインの照明設備の消費電力 (外部正面)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	301	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -5	ベースラインの照明設備の消費電力 (外部ブラケット)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	60	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -6	ベースラインの照明設備の消費電力 (外部ブラケット)	W	II	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	120	カタログ値	パナソニック(株)

R _B L-7	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	480	カタログ値	パナソニック(株)
CEFelectricity	電力のCO ₂ 排出係数	tCO ₂ /kWh	Ⅲ	デフォルト値を使用する	検証申請時に最新のものを使用	0.000569	デフォルト値	移行限界電源方式 (0年 ≤ t < 1年)
						0.0005615	デフォルト値	移行限界電源方式 (1年 ≤ t < 2.5年)
						0.000554	デフォルト値	移行限界電源方式 (2.5年 ≤ t年)

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

（1）計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	パナソニック(株)	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限
	該当しない		

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明
	該当しない		

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

（2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

該当しない

A. 4. 3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4. 1（1）においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	プロジェクト実施後の照明の稼働時間(h/年)								
<p>(推定・概算方法)</p> <p>A. 店舗、事務所等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の稼働時間は店舗営業時間である9.5時間(9:30～19:00)を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しているため営業時間を稼働時間とすることで保守的となる。 ・ 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は362日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 ・ 保守的稼働時間に年化稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 9.5時間 × 362日 = 3,439時間 <p>B. 倉庫等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の稼働時間は店舗営業時間である9.5時間(9:30～19:00)から、昼休憩の1時間(12:00～13:00)を引いた8.5時間を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しており、昼休憩時間も倉庫内作業に伴い照明を点灯していることが多いため営業時間から昼休憩を引いた稼働時間とすることで保守的となる。 ・ 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は362日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 ・ 保守的稼働時間に年化稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 8.5時間 × 362日 = 3,077時間 <p>C. 屋外照明</p> <p>(式) 一日の照明設備(外灯・看板等)の稼働時間(h/日) × 年間稼働日(日/年) × 0.95 = 年間稼働時間(h/年)</p> <p>施設の夜間照明設備の稼働時間はタイマー設定値である下記の通りとする。</p> <table border="0"> <tr> <td>01-03月</td> <td>18:00～6:00(12時間)</td> </tr> <tr> <td>04-06月</td> <td>19:00～5:30(10.5時間)</td> </tr> <tr> <td>07-09月</td> <td>19:00～5:30(10.5時間)</td> </tr> <tr> <td>10-12月</td> <td>18:00～6:00(12時間)</td> </tr> </table> <p>外灯は365日点灯している。それを保守的に把握し、予定年間稼働日数の95%とする。これより、年間稼働時間は3,898(h/年)とする。</p>		01-03月	18:00～6:00(12時間)	04-06月	19:00～5:30(10.5時間)	07-09月	19:00～5:30(10.5時間)	10-12月	18:00～6:00(12時間)
01-03月	18:00～6:00(12時間)								
04-06月	19:00～5:30(10.5時間)								
07-09月	19:00～5:30(10.5時間)								
10-12月	18:00～6:00(12時間)								

項目	一日の稼働時間 h/日	年間稼働日数 日/年	保守的に把握	年間稼働時間 h/年
外灯 看板灯	12 01-03月	90	0.95	1,026
	10.5 04-06月	91	0.95	907
	10.5 07-09月	92	0.95	917
	12 10-12月	92	0.95	1,048
合計		365	0.95	3,898

(モニタリングポイント)

該当しない

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類 A ~ 分類 C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	該当しない
該当しない	

A.2 追加性に関する情報（宜野湾店）

投資回収年

投資回収年数	3.5
--------	-----

年

A.3 排出削減量の算定方法(宜野湾店)

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (式1)$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量 (0年 ≤ t < 1年)	tCO2/年	9
ER	排出削減量 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO2/年	9
ER	排出削減量 (2.5年 ≤ t)	tCO2/年	9
EM_{BL}	ベースライン排出量 (0年 ≤ t < 1年) ※1	tCO2/年	13.2
EM_{BL}	ベースライン排出量 (1年 ≤ t < 2.5年) ※1	tCO2/年	13.0
EM_{BL}	ベースライン排出量 (2.5年 ≤ t) ※1	tCO2/年	12.8
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (0年 ≤ t < 1年) ※2	tCO2/年	3.8
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (1年 ≤ t < 2.5年) ※2	tCO2/年	3.8
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 (2.5年 ≤ t) ※2	tCO2/年	3.7

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		排出量の算定を行う
		排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A. 3. 1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
			排出量の算定を行う。
			排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

- ※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。
 ※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。
 ※3 方法論で規定された方法から選択すること。
 ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 方法論006の「プロジェクト実施後の照明設備の電力使用量から算出する。

$$EM_{PJ} = EL_{PJ} \times CEF_{\text{electricity, t}} \quad (\text{式2})$$

$$EL_{PJ} = R_{PJ} \times T_{PJ} \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (0年 \leq t<1年)	tCO ₂ /年	3.8
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (1年 \leq t<2.5年)	tCO ₂ /年	3.8
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の排出量 (2.5年 \leq t)	tCO ₂ /年	3.7
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	6,705
$CEF_{\text{electricity, t}}$	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 \leq t<1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
$CEF_{\text{electricity, t}}$	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 \leq t<2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
$CEF_{\text{electricity, t}}$	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 \leq t)	tCO ₂ /kWh	0.000554
R_{PJ-1}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	173.0
R_{PJ-2}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	473.2
R_{PJ-3}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	1,284.4
R_{PJ-4}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	96.0
R_{PJ-5}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (休憩室)	W	12.0
R_{PJ-6}	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	360.0

R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	176.0
R _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	121.9
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,318
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,318
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,318
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (包丁棚)	h/年	2,074
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (休憩室)	h/年	2,318
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (包丁棚)	h/年	2,074
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	4,218
T _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	4,218

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載-

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の稼働時間で、プロジェクト実施後の照明設備ではなく、ベースラインの照明設備を稼働する場合に想定されるCO₂排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$T_{BL}=T_{PJ} \quad \text{(式4)}$$

記号	定義	単位	想定値
T_{BL}	ベースラインの照明設備の稼働時間	h/年	
T_{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間	h/年	

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL}=R_{BL} \times T_{BL} \times CEF_{\text{electricity}, t} \quad \text{(式5)}$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (0年 \leq t<1年)	tCO ₂ /年	13.2
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (1年 \leq t<2.5年)	tCO ₂ /年	13.0
EM_{BL}	ベースラインの排出量 (2.5年 \leq t)	tCO ₂ /年	12.8
R_{BL-1}	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	752
R_{BL-2}	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	1316
R_{BL-3}	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	3572
R_{BL-4}	ベースラインの照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	160
R_{BL-5}	ベースラインの照明設備の消費電力 (休憩室)	W	20

R _{BL} -6	ベースラインの照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	1600
R _{BL} -7	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	320
R _{BL} -8	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	1200
T _{BL} -1	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,318
T _{BL} -2	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,318
T _{BL} -3	ベースラインの照明設備の稼働時間 (店舗)	h/年	2,318
T _{BL} -4	ベースラインの照明設備の稼働時間 (包丁棚)	h/年	2,074
T _{BL} -5	ベースラインの照明設備の稼働時間 (休憩室)	h/年	2,318
T _{BL} -6	ベースラインの照明設備の稼働時間 (包丁棚)	h/年	2,074
T _{BL} -7	ベースラインの照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	4,218
T _{BL} -8	ベースラインの照明設備の稼働時間 (看板灯)	h/年	4,218
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (0年 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000569
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (1年 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.0005615
CEF _{electric}	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000554

(3) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画（宜野湾店）

（1）活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類※1	概要	頻度	想定値	根拠	
ELPJ	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	C	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間をもとに算定する。	月	6,705	カタログ値と営業日数及び年間照明稼働時間	
T _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（店舗）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,318	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（店舗）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,318	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（店舗）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,318	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（包丁棚）	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,074	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（休憩室）	h/年	C	営業日と営業時間をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,318	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（包丁棚）	h/年	C	営業日と営業時間（昼休憩を除く）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	2,074	エリア毎に年間照明稼働時間を保守的に評価	
T _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（看板灯）	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	
T _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間（看板灯）	h/年	C	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）をモニタリング担当者が確認・記録する。	月	4,218	国立天文台の暦データ（沖縄県那覇市）より、日出・日没時間を確認	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。

分類B（計量器）を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。

分類C（概算等）を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

（2）係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
R _{PJ} -1	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	173.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -2	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	473.2	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -3	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (店舗)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,284.4	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -4	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	96.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -5	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (休憩室)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	12.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -6	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	360.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -7	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	176.0	カタログ値	パナソニック(株)
R _{PJ} -8	プロジェクト実施後の照明設備の消費電力 (看板灯)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	121.9	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -1	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	752	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -2	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,316	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -3	ベースラインの照明設備の消費電力 (店舗)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	3,572	カタログ値	パナソニック(株)
R _{BL} -4	ベースラインの照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	160	カタログ値	パナソニック(株)

R _B L-5	ベースラインの照明設備の消費電力 (休憩室)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	20	カタログ値	パナソニック(株)
R _B L-6	ベースラインの照明設備の消費電力 (包丁棚)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,600	カタログ値	岩崎電気(株)
R _B L-7	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	320	カタログ値	パナソニック(株)
R _B L-8	ベースラインの照明設備の消費電力 (看板灯)	W	Ⅱ	メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値を使用	—	1,200	カタログ値	岩崎電気(株)
CEFelectricity	電力のCO ₂ 排出係数	tCO ₂ /kWh	Ⅲ	デフォルト値を使用する	検証申請時に最新のものを使用	0.000569	デフォルト値	移行限界電源方式 (0年 ≤ t < 1年)
						0.0005615	デフォルト値	移行限界電源方式 (1年 ≤ t < 2.5年)
						0.000554	デフォルト値	移行限界電源方式 (2.5年 ≤ t年)

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

（1）計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	パナソニック(株)	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限
	該当しない		

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明
	該当しない		

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

（2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

該当しない

A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	プロジェクト実施後の照明の稼働時間(h/年)			
<p>(推定・概算方法)</p> <p>A. 店舗、事務所等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の稼働時間は店舗営業時間である9.5時間(9:30～19:00)を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しているため営業時間を稼働時間とすることで保守的となる。 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は244日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 保守的稼働時間に年化稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 9.5時間 × 244日 = 2,318時間 <p>B. 倉庫等照明</p> <p>(式) 一日の保守的稼働時間(h) × 年間稼働日(d/年) = 年間稼働時間(h/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の稼働時間は店舗営業時間である9.5時間(9:30～19:00)から、昼休憩の1時間(12:00～13:00)を引いた8.5時間を稼働時間として採用する。営業時間30分前には開店準備を開始し、閉店後30分は後片付け等をして照明を使用しており、昼休憩時間も倉庫内作業に伴い照明を点灯していることが多いため営業時間から昼休憩を引いた稼働時間とすることで保守的となる。 営業カレンダーより年間稼働日(d/年)を確認する。営業日は244日営業しており、臨時休業があった場合に営業カレンダーに記録するようにする。 保守的稼働時間に年化稼働日をかけて、年間稼働時間を算出する。 8.5時間 × 244日 = 2,074時間 <p>C. 屋外照明</p> <p>(式) Σ12ヶ月の総和 {一日の照明設備(外灯・看板等)の稼働時間(h/日) × 月ごとの稼働日(日/月)} = 年間稼働時間(h/年)</p> <p>施設の夜間照明設備は自動点灯のため、日没時間と日出時間より稼働時間を評価する。保守的となるように、国立天文台の暦データ(地点:沖縄県那覇市)より月ごとの最も遅い日没時間～最も早い日出時間を点灯時間として毎月確認し、月ごとの日数をかけて年間稼働時間を把握する。</p> <p>モニタリング開始後直近一年における、月ごとの最も遅い日没時間と、最も早い日の出時間は以下のとおりであり、外灯は365日点灯している。</p> <p>これより、モニタリング開始後直近一年における年間稼働時間は4,218(h/年)となる。</p>				
日付	最も早い日出時間	最も遅い日没時間	稼働時間(h/日)	稼働時間(h/月)

2017年3月	6:22	18:46	11:36	359:36
2017年4月	5:53	19:01	10:52	326:00
2017年5月	5:37	19:17	10:20	320:20
2017年6月	5:36	19:26	10:10	305:00
2017年7月	5:40	19:26	10:14	317:14
2017年8月	5:55	19:16	10:39	330:09
2017年9月	6:09	18:49	11:20	340:00
2017年10月	6:22	18:16	12:06	375:06
2017年11月	6:38	17:48	12:50	385:00
2017年12月	6:59	17:48	13:11	408:41
2018年1月	7:14	18:11	13:03	404:33
2018年2月	6:54	18:30	12:24	347:12
			合計	4218:51

(モニタリングポイント)

該当しない

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類 A ~ 分類 C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	該当しない
該当しない	